

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075800195
法人名	社会福祉法人 内野会
事業所名	グループホーム 嘉穂やすらぎ
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市鴨生476番地6 (電 話) 0948 - 42 - 1555

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8F		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	10月26日

【情報提供票より】(平成19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年1月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	1人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦屋根平屋造り 1階建ての1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	9,200円	
敷 金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,000円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.6 歳	最低	83 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西野病院 / 松岡病院 / 稲築病院 / 西川歯科 / 平野歯科 / 金丸病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営するグループホームである。法人のグループホームに対する理解は高く、入居者が家庭的な雰囲気の中で生活できるよう、施設や介護職員への配慮がなされている。建物が介護老人保健施設の裏手にあり、道路から遠く、近所の方が気軽に立ち寄りやすいという点はあるが、最近では職員の働きかけで、近所の方が花や野菜を持って来てくれるような関係ができています。地域の文化祭に作品を出品したり、花壇や畑づくりをしている。開設して6年目になり、入居者の高齢化に伴い、身体的介護の比重が増加してきたために、週1回ホームドクターに往診してもらっている。複合施設なので、利用者の状態変化にも多様なサービスの対応ができ、入居者及び家族が最も希望する支援の推進に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価をもとに話し合いを行い書類の整理など改善を図った。また、市町村合併で運営推進会議の開催をしていなかったため、会議を開催し地域の理解と支援を得るように取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価項目については、主任が中心となって、職員全員で話し合いを行い取り組んだ。法人の施設長にも協力と了解を仰いでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議のメンバーはホームドクター・薬剤師・地域代表・利用者・利用者家族で、利用者家族は全員に声をかけている。内容は利用者の状況やサービスの内容などを説明し、意見交換を行っている。出された意見などは今後運営に活かしていく方針である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	法人全体の情報誌を年に4回発行しているが、グループホーム独自では発行していない。日頃から家族とは連絡は密にとるようにしているが、面会時には入居者の状況を詳しく報告するようにしている。また、運営推進会議に入居者家族全員に参加を依頼しているため、会議の中で家族の意見を吸い上げ、運営に反映できるように努めていく方針である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	施設が介護老人保健施設の奥にあり、道路から遠いため、近所との連携が取りにくかった。朝夕の挨拶からはじめ、最近では山菜やお花をいただける付き合いができるようになった。また、町内会の廃品回収などの地域活動に参加したり、地元の中学校や高校の職場体験実習などの受け入れも行っている。運営推進委員の中に、以前介護相談員をしていた方がおり、この方の協力を得て地域との連携をさらに高めていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業目的と運営理念を理念として掲げているが、職員は自分達で考え、入居者の介護に最も必要なものは何かを話し合い、「寄りそって、ゆっくり、一緒に」という理念を紙面に書いて、玄関に理念と並べて掲げている。		平成18年度の法改正により、「地域密着型サービス」の理念も掲げることが求められており、地域との交流など地域密着型サービスの趣旨をふまえて、文言・内容の追加が望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員で話し合い、「寄りそって、ゆっくり、一緒に」という言葉を介護の基本として作り上げている。ミーティングなどで話し合い、理念と共に日々認識を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の廃品回収や牛乳パック回収などの地域活動に参加している。地元の中学校・高校の職場体験実習などの受け入れも行っている。		グループホームのこれまでの認知症介護の実績を活かし、そのノウハウを地域に還元することが求められ、玄関に「介護相談受けます」などの看板を設置するなど工夫が求められる。そのことにより、更に地域との関係づくりを高めることが期待できる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価報告書をもとに職員で話し合い、改善に努めた。自己評価についても主任が中心となり話し合い、評価の意義を理解し取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市町村合併に伴い、手続きなど事務処理に追われ、運営推進会議は現在のところ1回しか開催できていない。メンバーはホームドクター・薬剤師・地域代表・入居者で構成されている。入居者の家族には、全家族に参加を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併に伴い、行政側の体制づくりが行われている状況である。しかしながら、疑問点や相談など、電話や訪問により連携を密にし、質の向上に繋げている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者や家族に肉親の状況により、制度についての説明を行っている。また、職員も研修を受ける機会を設け、権利擁護の共通理解を深めている。		
4. 理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃から連絡は密にしているが、特に面会時には利用者の状況を詳しく報告するようにしている。また、入居者に心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時は家族にすぐに連絡を取るようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との会話の中で意見や不満などが気軽に言える雰囲気づくりに努めている。また、何か問題が発生した場合は、話し合いを行い、サービスの質の向上に繋げている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職も少なく、異動もほとんどないが、離職や異動に備えての入居者のダメージを防ぐ対応策が求められる。離職や異動の1ヶ月前に次に代わる職員を配置するなどの対応の検討が必要である。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員採用に関しては、性別・年齢を基準にしていない。高齢者に対して理解がある方で、体力のある方などを優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	サービス会議やリーダー会議などで人権教育や啓発活動に取り組んでいる。また、職員が人権教育・研修に参加できるように支援している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新任職員にはビデオやマンツーマンで指導をしている。中堅職員にはスキルアップのため、介護福祉士・ケアマネジャーなどの資格試験を受験できるよう支援をしている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	行政主導で連絡会があり、参加しており、連絡会で情報交換などを行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居相談時には、入居者に必ず見学をしてもらい納得した上で、サービスを開始するように説明している。グループホームになじむまでは入居者の意思を尊重するようにしている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者が高齢化しており、徐々にできることが少なくなってきたが、一部分でもできることは行っていただけよう支援している。女性の入居者が多いので、料理や食材の準備などは能力発揮や役割の場としてとらえ、職員と共にできることを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の希望や意向の把握に努めている。入居者の行動などで気になることは、随時連絡帳に記載し、職員全員が把握するようにしている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者・家族の意向にそったケアプランの作成を心がけているが、入居者の高齢化に伴い、身体介護が中心のケアプランになりやすい状況である。		入居者一人ひとりの生活歴や言葉や言葉に表せない思いを、日々の行動や表情から汲み取り把握し、入居者の心身に応じた個別のケアプランの作成が求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月～6ヶ月を1サイクルとして見直しを行っている。入居者に状態変化が生じた場合は、入居者・家族・職員と話し合い、現状に即したケアプランを作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	複合施設併設のグループホームなので、入居者・家族・入居希望者などの相談に応じ、入居者の意向にそって柔軟な支援を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者や家族の同意を得て、希望する病院に看護師が同行し、医師の指示や服薬の留意点などを把握し、入居者の健康管理を行っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重症化については「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、それに基づいて実施している。特に入居者や家族の意思を尊重し、医師や看護師と連携を取りながら対応している。</p>		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の生活歴や性格に合わせた声かけを行い、入室の際にはノックや声かけを行い、プライバシーに配慮している。記録については個別ファイルを作成し、事務室に保管している。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日のスケジュールは決まったものではなく、入居者や家族の希望にそって支援している。面会時間・外出外泊も自由で制限していない。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>誕生日には入居者の好物をメニューに入れたり、外食で好きなものを食べられるようにしている。野菜の下ごしらえや下膳など、自分でできることは、職員と一緒にやっている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の希望や体調に合わせて、無理のない範囲で入浴を支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	休憩室には観音様が祀られており、入居者が参拝ををしている。毎日の暮らしの中では、植木鉢の草取り・野菜の皮むきなど、できることをしてもらっている。日めくりカレンダーやボードに日にちを書くのを楽しみにしている入居者もいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の高齢化に伴い、日常的な外出が難しい状況がある。毎月1回～2回はドライブや外食などを楽しんでいただけるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	門扉・玄関・居室には鍵をかけていない。玄関のみセンサーをつけている。外出の察知や外出傾向を把握し、さりげなく見守りをしたり、一緒に外出したりしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	緊急連絡網や避難訓練マニュアルを作成し、それにもとづいて実施できるよう訓練している。また、同一敷地内にある系列法人施設に協力を依頼している。避難訓練などは、地域との連携が求められ、運営推進会議などで、協力を依頼するなど取り組みが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事の摂取状況は、チェック表に記載し把握している。献立については、法人の管理栄養士にアドバイスを受けて調理の仕方なども工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用区間は和室と洋室とあり、天井が吹き抜けであることも合わせて、広々として、ゆったりした感じがする。窓も広いので遮光カーテンを使用している。和紙で作られた照明や季節の花々が生けられるなど季節感を出す工夫がされている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は広く、トイレとクローゼットが備えつけられている。ベット以外は入居者が自宅で使用しているものを持ってきてもらっている。マッチ・ライター・ろうそくなどの火事の恐れがある物以外は持ち込みの制限はしていない。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			